○「今、こんなことしてます」
ご無沙汰している方々へ“近況報告”
○「こんなこと、感じてます。」
“社会教育主事有資格者として”

情報交換「市」

○会員どうしの「絆」を結ぶ。紙面上の“情報交換「市」”
○「伝えたい！」「お願い。教えて！」“伝言板”

幼稚園のＰＴＡ役員を通して

小山市立小山城東小学校　教諭　髙橋　和美

昨年度は長男が幼稚園に入園し、育児休業中だったこともあり、「今しかない！」と思い、幼稚園のＰＴＡ役員を引き受けました。

運動会やバザーの手伝いなどをし、活動はどれも楽しいものでした。

そんな活動を通しながら、保護者の立場から先生方を見ていると、どの先生も常に、子ども達のために一生懸命で、明るくハキハキと、そして、にこやかに子どもや保護者に対応していました。「安心して子どもを任せられるな。」と感じました。

周りの保護者もみな親切で、幼稚園のことなど、教えていただくことがたくさんありました。

休業中には、先生や保護者、また地域の人などとの出会いがたくさんあり、今までとは違った目線で、様々な人と関わることができ、貴重な経験をすることができました。

この経験を今後に生かし、常に相手の気持ちを考えながら、明るく笑顔で接することができるよう心がけていきたいと思います。

地域のエキスパートとともに

栃木市立西方中学校　教諭　井寺　聡

国語科では毛筆、社会科では戦争体験の講話、音楽科では和楽器体験、保健体育では救命救急や健康に関する講話、家庭科では保健師による授業、部活動指導…。とにかく、本校には地域の「エキスパート」がよく来校されます。そして、それを支えるコーディネーターがとにかくすごい。「こんなことしたい」とつぶやけば、ほとんどが実現します。職場体験に向けて、一般企業でも講演するプロによるマナー講習や盲導犬とのふれあいを通して学ぶ福祉の学習など教員のつぶやきがどんどん形になっていきます。

先日、「学校祭で和太鼓に挑戦したい」とつぶやくと、町の太鼓を使っての発表が実現。ステージに並ぶ、総額約一千万円の和太鼓。太鼓も一流なら指導者も一流。もちろん、演奏は大成功。生徒は大満足。生徒にとって、貴重な経験となりました。

有資格者としての自分ができることは少ないけれど、すごい力を持った地域の方々と協力して、「小さいがキラリと光る西方中」を目指してこれからも頑張っていこうと思う。

社会体験から学ぶ

栃木市立千塚小学校　教諭　松本　頼夫

平成16年度に３か月間の社会体験研修を経験した。私が配属されたのは、『Ａ』という冠婚葬祭を扱う会社だった。はじめの１か月は、お返し物の缶詰作業など、６時間の立ち仕事。２か月目は、お茶栽培の現場研修や首都圏への営業。自社商品を売り込むための戦略を学んだ。自己アピールするという点では学校も同じである。最後の１か月は、葬儀関係の仕事をした。いきなり、自宅葬（今はほとんどがホール葬）の現場に行って、納棺師の手伝いをした。無我夢中でご遺体のお清めを行った。その後、セレモニーホールで案内係や駐車場係、棺を運ぶ仕事等を経験した。この経験で得たものは、どんな仕事にも誇りを持って取り組んでいる人々がいるということだった。私たちは、葬儀というとマイナスのイメージを持ちやすい。誤った先入観で物事を判断してはいけないことの教訓を再認識した。

その会社を興した社長さんの言葉で印象深いのは、次の言葉である。

（１）**信頼関係の構築**・上司と部下、会社と取引先、営業担当とお客さんとの信頼関係
（２）**モチベーションの向上**・毎日行きたくなるような会社・仕事への情熱（ロマン）
（３）**お客様（児童生徒）のために**・自社だけでなくお客様にとっての利益
（４）**ネットワーク作り**・各関連企業との連携・お互いの発展のための情報交換

☆会社を学校（又は児童生徒）に置き換えてみてると、私たちの取り組むべき方向性が見えてくる。まさに、教員もお互いの情報を交換しあうことや、困ったときの仲間の助言が何よりも大切であることは間違いないと感じた。

情報交換「市」

○「今、こんなことしてます」
ご無沙汰している方々へ“近況報告”
○「こんなこと、感じてます。」
“社会教育主事有資格者として”

○会員どうしの「絆」を結ぶ。紙面上の
“情報交換「市」”
○「伝えたい！」「お願い。教えて！」
“伝言板”

ボランティア活動で幅広い考え方を

県立小山北桜高等学校　教諭　樋口　郁英

昨年度、社会教育主事講習を受け一年たちました。学校では得られない大切な考え方を学ぶことができとても有意義な勉強をすることができました。

私は、講習を終えて学校に戻り、数名の生徒たちに声をかけボランティア活動を主とする「ＪＲＣ同好会」を設立しました。目的は、「視野を広げること」です。私自身、高校から社会人の今になっても、ボランティア団体に所属しています。その活動の中で、いろいろな職種の方や幅広い年齢層の方と交流を持つことが出来ました。高校時代では、自分の知らない職種を知ることができ、今では、民間の会社の実情などをたわいもない話から得ています。そのことが、今の自分を見つめ直し、新たな考えを生み出していると考えています。

現在の高校生は、学校と家庭と限られた人との関わりのみで、幅広い考え方をする気迫に欠けているような気がします。ボランティア活動をすることにより、他校の生徒や大人と話し交流し、コミュニケーション能力を身につけ、今後の進路選択にもつながっていければと思っています。

太平少年自然の家に勤務して

県立太平少年自然の家　指導主事　武藤久美子

太平少年自然の家の勤務を命ぜられ、１年８ヶ月が過ぎました。私は指導課の指導主事という立場で、利用団体の指導・支援や広報活動、主催事業の企画と実施等を担当しています。初めて経験する出来事や多くの人たちの出会いに恵まれてきました。今年の１～２月には、社会教育主事講習に参加させていただき、社会教育について理論面からも学ぶことができました。学校では、私は養護教諭として勤務してきましたが、今まで自分がいた世界はいかに狭かったのかを痛感すると共に、広がっていく世界を興味深く感じながら変化に富んだ日々を過ごしています。

自然の家で提供する自然体験活動は、子どもの健やかな成長や、豊かな人生を送るために欠かせない基盤となるものです。自分自身が楽しみながら、その素晴らしさや価値を利用者の方に伝えていきたいと思います。

温故知新？

岩舟町教育委員会事務局　社会教育課
主幹兼担当長　篠﨑　雅一

平成８年夏、国社研で約４０日間に及ぶ社教主事講習を受け、７年間を社会教育主事として過ごしました。当時は、「学社連携・融合」、「生涯学習まちづくり推進本部の立ち上げ」など、今では何となく懐かしく感じる言葉の仕事をした覚えがあります。

昨年度、約９年ぶりに社会教育課へ戻り、時の流れを強く感じたところです。また、当時派遣社教主事として親しくお付き合いさせていただいた先生方が、みなさん校長先生・教頭先生になられていて、改めて十年一昔を感じます。

話は変わりますが、現在岩舟町では、「いわふねしぐさ」の普及に努めています。江戸しぐさに倣って、子どもたちに岩舟の誇りを残そうと始めたものです。「あいさつしぐさ」や「返事のしぐさ」など、日常生活の中ではとても当たり前のことですが、なかなかできていないことに焦点を当てています。明るいあいさつ、靴の脱ぎ方、しっかりとした返事・・・みなさんは、いかがですか？

情報交換「市」もすっかり、「ネットワーク」の定番となりました。社会教育主事講習で一緒だったあの人が、一緒に勤務したあの人等が、「現在」の様子を皆さんに語ります。ぜひ、これからのふれあい学習の一助に、そして、紙上同窓会的意味合いもあります。今回の情報交換「市」も、ぜひ、お楽しみください。